

氏 名	川 野 誠 司
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 4469 号
学位授与の日付	平成 24 年 3 月 23 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)

学 位 論 文 題 目	Proton Pump Inhibitor Dose-Related Healing Rate of Artificial Ulcers after Endoscopic Submucosal Dissection: A Prospective Randomized Controlled Trial (内視鏡的粘膜下層剥離術後の人工潰瘍におけるプロトンポンプ阻害剤投与量の比較検討)
-------------	---

論 文 審 査 委 員	教授 千堂 年昭 教授 合地 明 准教授 水島 孝明
-------------	----------------------------

#### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

胃腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）後の人工潰瘍に対する治療には H<sub>2</sub> 受容体拮抗薬と比較しプロトンポンプ阻害剤(PPI)の有用性が報告されているがその投与量について検討された報告はなされていない。本研究では ESD 後の PPI の投与法につき、常用量投与群と半量投与群において潰瘍の治癒、後出血の頻度、quality of life(QOL)について比較検討を行った。当院にて胃 ESD を施行した 91 名に対し、術後一週間は全例で PPI を常用量投与し、その後無作為に常用量投与群と半量投与群に分別した。結果、両群とも 1 例に後出血を認めた。潰瘍の治癒率、QOL の指標となる Gastrointestinal Symptom Rating Scale(GSRS)は両群間に有意な差を認めなかった。半量投与群においては常用量投与群に比べ約 4300 円の医療費が削減できていた。胃 ESD 後一週間後より PPI を半量に投与することは治療において常用量投与と同等の効果がある一方、医療経済上は優れたものであると考えられた。

#### 論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）後の人工潰瘍治癒、出血予防、QOL においてプロトンポンプ阻害剤（PPI）ランソプラゾールの半量投与（15 mg）への減量が常用投与量（30 mg）と比較しどのような影響を与えるかを検討した成果である。

従来、ESD 後、人工潰瘍を早期に治癒へと導くために H<sub>2</sub> 受容体拮抗薬より PPI の有用性が報告されてきているが、その至適投与量については検討は最初の報告である。本研究においてランソプラゾール常用投与群と半量投与群の間に潰瘍の縮小率およびステージ、QOL の評価において有意な差は認められなかった。本研究では治療の有用性とあわせて、医療経済的観点でも評価していることは評価できる。

本研究で得られた新知見により、ESD 後 PPI 投与を半量に減量し投与することで、ESD 後潰瘍治癒、出血予防、QOL の点において常用量投与と同等の有効性があることのエビデンスが提示されたわけで今後の標準治療の推奨に繋がるものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。